

新任の ご挨拶



一般財団法人 全日本労働福祉協会
専務理事 三好 正美

平成25年6月14日に開催されました弊協会の理事会で、専務理事として選定されました三好でございます。

日頃から皆様方には、弊協会の健康診断・作業環境測定をご利用賜りまして誠にありがとうございます。

私はこれまで、弊協会の東海診療所、本部、東北支部等にて施設検診、巡回健診の運営責任者として業務に従事してまいりました。

この現場でいただいた皆様からのご意見を、今後は協会運営の柱とし、真に皆様のお役に立てる労働衛生サービス機関として活動してまいる所存でございます。何卒よろしくお願いいたします。

発足以来、「働く人々が、いつも健康であること」を願って、幅広い職域や地域で活動させていただいてまいりました弊協会も、おかげさまで来年は60周年を迎えることとなりました。そして現在では、年間85万人の方々の方々の健康診断を実施させていただいております。

これも永年にわたる皆様方のご支援、ご指導の賜物と心より感謝申し上げます。

さて、現在の私たちを取り巻く労働衛生環境は、定期健康診断における有所見率の増加や、主として仕事上の悩みやストレスを起因としたうつ病の発生など、多くの問題を抱えております。そしてこれまでの定期健康診断のみならず、いわゆるメタボ対策としての特定健診・特定保健指導、さらにはメンタルヘルスチェックなど、多岐に渡ってきております。

今後とも、弊協会では、このような世の中の変化に迅速に対応し、お客様のご要望にお応えできる信頼性の高い健診機関を目指してまいります。

そして、巡回健診のパイオニアとして、皆様のご指定の場所に、皆様のご都合に合わせてお伺いし、健康診断を行わせていただくそのメリットを最大限にご利用いただき、効率的、効果的な健康管理に弊協会をご活用いただければと思います。

何卒、新しく一般財団法人としてスタートいたしました全日本労働福祉協会を、これまで以上にお引き立て下さいますようお願い申し上げます。

健康診断と気づき

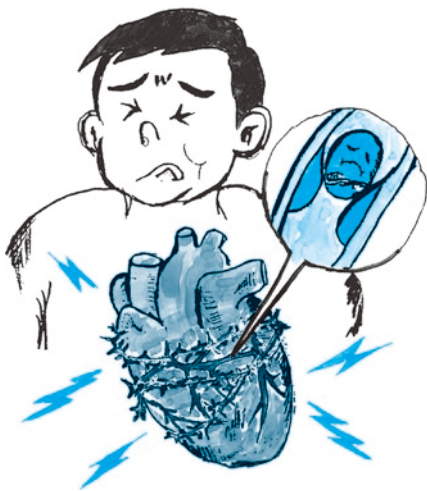


全日本労働福祉協会 産業医
伊集院 一成

健康診断は事後措置が肝心で、健康診断結果に基づく保健指導があつて初めて健診の実を結ぶことは周知のことです。

真新しい健診個人票のファイルが金庫の中に眠っていたりすると、保健指導等がなされているか疑問を感じることがあります。

福岡市は、飲酒による不祥事対策として、以前の「禁酒令」に加えて、今回さらに、職員の健康診断の数値を上司が確認し、アルコール依存症の危険性が高い職員には、酒量を控えるよう指導すると共に、家族にも過度の飲酒をさせないよう協力を要請し、医院にも同行して、受診結果の報告を求めるようになったといえます。健康診断の事後措置もここまでくると、厳しい覚悟を職員に迫るものとなります。



飲酒に限らず、

ポッコリお腹や隠れ肥満などにも要注意です。特定健診（40歳から74歳までの人に、健保組合等が実施）や



労災二次健診の特定保健指導でも、メタボ改善による健康な生活をすすめています。

健診によつて医療費の抑制・国民健康の増進が期待されますが、国民生活基礎調査（2010年）によると、過去1年間に健診や人間ドックを受けなかった人（健診弱者）が32%もあり、その数は3300万人と推計されます。健診弱者と比較するわけではありませんが、信頼できる健診機関で健診を受けて、そのうえ適切な保健指導を受けられることは、非常に幸せで、恵まれているといえます。

しかし、保健指導の場で、「もう、喫煙を止められては……」

「飲酒量が多過ぎませんか？」

「年ごとに体重が増えています。運動習慣は……」

などと穏やかに生活習慣の変容を促しても、

「1カ月は禁煙できたんだがね。もう諦めたよ」

「酒席が多くて。営業職は毎晩付き合いで大変なんです」

「残業が多いと帰宅が遅いだろう。夜食の後すぐ寝ちまうんだ。運動する時間なんか少ないよ。わかっているんだけどさ」

と、毎度同じような返事をいただきます。

健診データが見違えるほど改善して驚かされるような事例は、皆無ではありませんが稀なものです。ほめて、注意して、ときには脅しと誤解されかねない説得を試みても、長年積み重ねられた生活習慣の変容には至りません。心配が伝えられないもどかしさを抱きつつ、ご本人の「気づき」を待つしかないのです。自身の不健康に気付いて、納得して、強い意志をもって実行される（これが難しい）と、悪い生活習慣の改善は早く、健康な生活が保障され、病気の早期発見、ひいては医療費の抑制にもつながることはいうまでもありません（遺伝的な要素等があると、改善には至らない場合もありますが……）。

ほほえましい記憶があります。ラーメン店で、隣に座っていた建設現場の労働者風の3人の男性の会話です。

「俺、コレステロールも血圧も高いんだ。親父も心筋梗塞で風船療法やったんで、医者から薬を飲むように勧めら

れているんだけど、一度飲むと一生続けることになるっていうから、今迷っているんだよね。とりあえず、ラーメンスープは飲まないことにしたよ」

「僕も、血圧が高めなんです。だから米飯を1膳だけに減らして体重を5kg下げたら、健康管理室の保健師にほめられましたよ」

「俺は、肝臓のガンマ何とか（γ-GTP）がいつも高いんだ。ラーメンと酒のせいかな。だから、缶ビールは1本だけに減らすよ！」

と、3人それぞれに見事な「気づき」が確認され、拍手したい気持ちでした。ここまで健康診断に関心を高めてくださった健康管理スタッフの苦勞が目に見えるようで、いまだに記憶に残っています。

プロフィール

伊集院 一成

日本医師会認定産業医
労働衛生コンサルタント（保健衛生）
日本産業衛生学会専門医

略歴

松下電器・東京健康管理センター総合健診部兼
臨床検査部長
（財）関東電気保安協会・産業医

職歴

東京産業保健推進センター・産業医学相談員

健康管理の3本柱で 従業員の健康づくりをサポート



会社概要

創立以来、セイコーエプソンは、ものづくり企業としてのDNAを受け継ぎ、発展してきました。1964年に行われた東京オリンピックでセイコーグループがオフィシャルタイマーになったのをきっかけに、記録を印字するためのプリンターの開発が進みました。その結果、1968年に小型の電子プリンターの開発に成功し、この電子プリンター(Electronic Printer) (EP-101) から発展した製品群、すなわち子ども (son) 達が成長するようにとの願いを込め、1975



年にEPSONブランドが制定されました。

以降、「省、小、精の技術」を磨き続け、プリンター、時計プロジェクト、様々な電子部品をはじめ、最近では産業用ロボットやヘッドマウントディスプレイなど、多岐にわたる商品を世界中に販売しています。

セイコーエプソン日野事業所には、前記事業のうち、設計、企画、販売、コールセンター、修理等、様々な職種の従業員が関わる従業員が約1100名勤務をしています。

健康管理活動

弊社の健康管理の3本柱をご紹介します。

1 健康診断とその結果の活用

例年6月に定期健康診断を実施し、その結果に基づき各自で改善活動に取り組んでいます。また産業医や保健師からアドバイスを受けられる場を設け、従業員それぞれのライフスタイルに合わせた予防行動を支援しています。

さらに、事業所全体の健診結果を分析し栄養や喫煙などテーマを決め、健康づくり活動や各種イベントなどを行い、従業員が楽しんで健康づくりができるような環境の提供も合わせて取り組んでいます。

2 メンタルヘルス対策

年に1度の定期健診時にストレスチェックを行い、結果を基に産業医、保健師、カウンセラー等によるフォローアップを行っています。また、職場復帰支援については基準を設け、従業員と職場が相互理解しながら、過度の負担なく復帰できるように関係者で協議しながら見守りを行っています。

今後は、やりがいをもって生き生きと働くための職場環境を作っていくために、職場自身で改善活動を行っていくための施策についても検討していきたいと考えています。

3 過重労働対策

入退場記録を基にした在社時間管理を行い、就業時間が基準を超過する見込みの場合は、36協定に基づいて労使による事前協議が行われ、慢性的な長時間労働やそれによる健康状態の悪化がないことなどを確認のうえで行うしくみになっています。

また、各職場における労働時間状況を事業所内で共有し、適切な労働時間管理が行われているか、相互に確認し合う取り組みも行っていきます。

会社概要

セイコーエプソン株式会社
日野事業所

住 所 東京都日野市日野 421-8

U R L <http://www.epson.jp/>

事業内容

プリンティングシステム事業、
ビジュアルコミュニケーション事業、
マイクロデバイス事業、
プレジジョンプロダクツ事業、
インダストリアルソリューションズ事業、
センシングシステム事業



名所名跡
特産品の
紹介コーナー



愛知県

現存する日本最古の木造天守閣

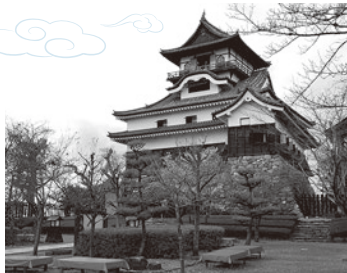
国宝・犬山城

全日本労働福祉協会

東海支部

末松

輝和



犬山城は、尾張（愛知県）と美濃（岐阜県）の国境に位置するため、戦国時代を通じて国盗りの要所となり、城主はめまぐるしく変わりました。小牧・長久手の合戦（1584年）では、羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）が12万人の大軍を率いてこの城に入場し、小牧山城に陣取る徳川家康と生涯唯一の直接対決をしました。江戸時代に入ると、尾張藩付家老・成瀬正成が城主となり、幕末まで続きましたが、明治維新による廃藩置県のため、この城は愛知県所有となりました。しかし、明治24年の濃尾地震で半壊し、その修復を条件に再び成瀬家の所有となり、平成16年に財団法人に移管するまで日本で唯一、個人所有の城でした。

歴史を刻む木造建築

築城当時の木材が多く残されている犬山城。「さすが国宝」と思わせる歴史を刻んだ古木材の温もりが感じられます。城内では歩くとミシミシと鳴る音や、床の隙間など、五感で犬山城を楽しめます。

神木「大杉様」

天守閣の東方に櫓に囲まれた杉の木があります。この杉は元々、犬山城よりやや背が高く（24・5m）、伊勢湾台風の際、落雷があり枯れてしまいました。それ以降、地元の住民は、杉の木が犬山城の身代わりになってくれたとして、しめ縄をして祀っています。

天守最上階からの絶景

望楼型の天守最上階からは絶景をご覧いただけます。周囲を確認できるよう、天守最上階を取り巻く回廊があり、天気の良い日には、美しい木曾川の眺めや、御嶽山、岐阜城、名古屋駅ビルなど山あり川ありの絶景が広がります。私も毎年、この絶景を一番楽しむことができる桜が満開の頃に訪れます。

名古屋B級グルメの代表「手羽先」



名古屋名物の手羽先（手羽先のから揚げ）は一般的な鳥のから揚げや、パーティ料理のチューリップ揚げとは全く別のもので、名古屋人は、いちいち「手羽先のから揚げ」とは思わず、単に「手羽先」といいます。

カラッと揚げ、甘辛のタレに加えてコショウがピリッと辛いのが特徴。今から40年程前、利用価値がほとんどなかった手羽先という部位をから揚げとして提供したことが発祥です。名古屋にお越しの際は、ぜひ一度ご賞味ください。



「メンタルヘルスのお話」

～心の問題にどう対処するか～

「風疹 緊急事態宣言」

～子どもをまもるためにできること～



平成 25 年 5 月 10 日、銚子プラザホテルにおいて、銚子労働基準協会様の総会に合わせ、健康セミナーが開催されました。当協会からセミナースタッフとして、健康事業部より田村が参加し、産業医・長濱さつ絵が講師として健康セミナーを実施しました。

セミナー内容は、1部で「メンタルヘルスの基礎」を具体的な疾病説明から行き、「うつ病の定義」や「うつ病の特徴や原因やメカニズム」を説明し、事業場における実際の発症事例の紹介を行い、受講者に「うつ病の概念」を理解していただきました。

2部では「メンタルヘルスの対応」を、早期発見のために行うべき職場のメンタルヘルスとして具体的に説明しました。また、各事業場の産業保健体制に応じてできるメンタルヘルス活動の取り組み方や、行政機関などの相談窓口の紹介、対応事例の説明を通じ、事業場への導入のアド

バイスとなるお話となりました。

3部では、現在流行している風疹について「風疹 緊急事態宣言～子どもをまもるためにできること～」と題して、「風疹の発症状況」「風疹がもたらす健康被害」についてや「職域での発症事例」を具体的に説明しました。また、日本の風疹予防接種の変遷やワクチン接種の重要性を説明することで、事業場での取り組みについても注意喚起を行いました。

当日の講演後には、聴講した基準協会会員事業場の方から、「自社でも健康診断の基本的な意義や活用方法の理解を従業員に知ってもらうために、同様の内容の講演の検討をしたい」とのご意見を複数いただきました。また、メンタルヘルスや風疹に対して、事業場に持ち帰り、「実践に生かせる知識の習得に役立った」とのご意見もいただきました。

小山洗足町会防災訓練を実施しました

～地震体験車で地震の怖さを体験する～

小山洗足町会 会長 川上 保昌

先

平成 25 年 6 月 22 日（土）午前 10 時から、全日本労働福祉協会旗の台健診センターの駐車場を借用し、小山洗足町会の防災訓練の一環として、起振車による震度 7 の体験を実施しました。この駐車場で体験が行われるのは 3 回目となります。

今回は、品川区防災課が平成 24 年に新規購入した起震車を使用させていただきました。震度 7 を体験した町会の人達は「実際に揺れが起こったら、今まで聞いていたことは何もできず、ただただ恐ろしかった」と体験者どうしで話し合っていました。また、会場が町会内で、一般道のすぐ脇であったため、通りがかりの町会以外の方も体験を希望するなど、大勢の方が体験され、大地震の恐ろしさ認識されたと思います。

こういう訓練は数多く経験することが大切です。これからも機会を見つけては計画し、いざというときに少しでもお役に立てればと思います。

この訓練に際して、快く駐車場を使用させていただき、また旗の台健診センター職員の大勢の参加、旗の台健診センターの心遣いに心よりお礼申し上げます。

